

その他の調査の進捗状況について（抜粋）

1. 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討

1 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討

1.1 目的

漂流・漂着ゴミ問題の取り組みにあたっては、関係者の情報交換の場を設置し、ネットワーク化を進めていくことが重要である。全国レベルにおける連携強化のみならず、地域レベルにおける連携強化も重要な課題であり、とくに近傍の河川がゴミの発生源となっている可能性のある地域においては、河川流域全体の関係者の連携を強化することが有効である。本調査では、河川流域における NPO/NGO および自治体が一同に会し情報交換をする場の設置可能性について検討し、平成 20 年度の流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催に資することを目的とする。調査の概要を図 1 に示す。

1.2 調査内容

平成 19 年度の調査結果を踏まえて、福井県九頭竜川流域を対象として流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)の準備を進める。ワークショップの開催は平成 20 年秋以降(予定)とし、それにより参加者の有する知見やノウハウを共有するとともに、流域のゴミ問題に関する課題について議論する。

1.3 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)の概要(案)

(1) ワークショップの位置づけ・目的

平成 19 年度の検討結果から、九頭竜川流域においてゴミ問題を取り扱う団体はいくつかあるものの、現時点ではそれらが集まって流域全体のゴミ問題の対策を検討するといった段階に達しているわけではないことが推察された。まずは少数の核となりうる団体から情報発信を行い、関心のある人々に受け止めてもらうことにより、裾野を広げ全体の底上げをしていくことが必要な段階にあると考えられる。一方、平成 19 年に国土交通省主催で開催された「九頭竜川“水・交流サミット”」では、流域の首長による意見交換等が行われ、ゴミ問題も含めた流域の課題について、今後、関係機関が協力して広域連携を進めていくことが行政レベルで確認されている。

そこで、本業務では対象を民間のゴミ問題に関する関係団体として、

- ・ 最終的にゴミが流れ着く河口や海岸の現状を知ってもらうこと
- ・ 流域でのゴミ問題に関する取組・課題について情報を共有すること
- ・ 今後の対策に向けて緩やかなネットワークを形成していくこと

を目的とするワークショップを開催する。

(2) 参加者の候補

- ・ 流域・沿岸域の環境 NGO/NPO (エコネイチャー彩みくに、NPO 法人ドラゴンリバー交流会等)
- ・ 流域においてゴミ問題や街美化に関わる NGO/NPO、ボランティア団体
- ・ 坂井市街作り協議会
- ・ 関係行政機関 等

(3) 開催時期

2008 年 11 月～12 月

(4) 場所

福井市内

漂流・漂着ゴミ問題では関係者の連携強化が重要
⇒とくに、河川流域全体の関係者の連携を強化することが有効

流域全体のNPO/NGOおよび自治体が情報交換をする場を設置

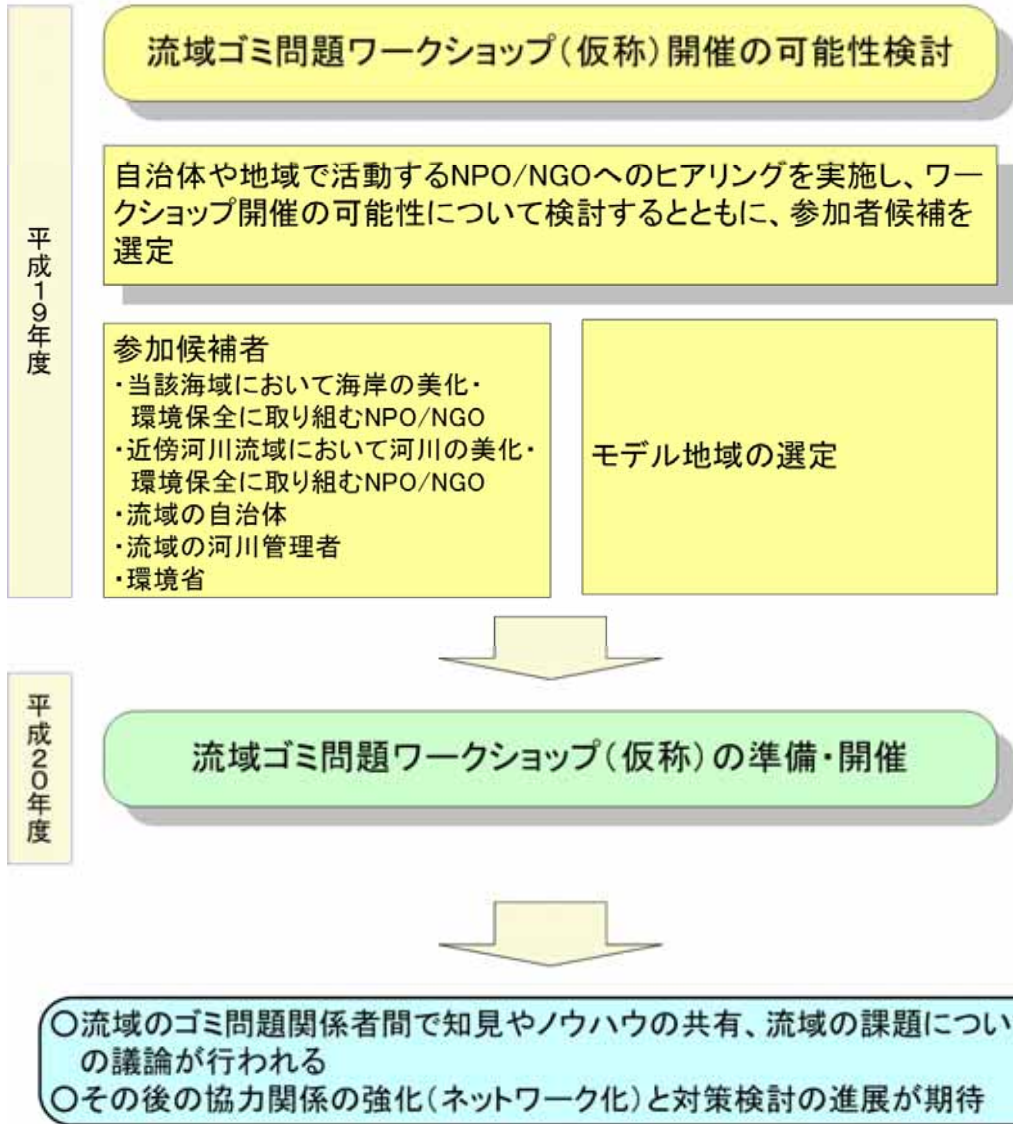


図 1 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討の概要